

自閉症・情緒障害特別支援学級における

自立活動の導入

－ 動作法を取り入れた実践活動の取り組み －

教育実践高度化専攻 児童生徒発達支援コース 特別支援教育実践系

特別支援学級の自立活動で体を動かすプログラムとして動作法をアレンジした。比較的軽度な子ども達が在籍する特別支援学級では模倣動作を重視したり、ペア活動で動作法を実施したりする等によって個別支援が可能になった比較的重度な自閉的な中学生 2 名の事例を紹介した。本動作法プログラムは指導パッケージとしておよそ 1 年 3 ヶ月の期間の中で取り組み、全体的な行動の落ち着きや他者への関心、能動的な関わりなど、日常的行動においても変容が見られた。また、動作法経験が 1 年と経験の浅い筆者が援助者として人間の行動の基盤を育もうとした。その教師の関わりの在り方については、児童と注意を共有しようとするだけでなく、情動をも共有しようとする姿勢が大切である。地域の小学校には、より落ち着きがなく、手のかかる子に対する教育的ニーズは高いことも考えられる。そのニーズを担う役割として、小学校低学年や自閉傾向が重度の子どもたちの、特に対人的な発達の基盤を育む意義があると考えられた。